商品市況展望

平成 25 年 6 月 16 日記

株価「政権交代前より 5 割上がっている」　財務相

2013/6/14 10:51

麻生太郎副総理・財務・金融相は 14 日の閣議後の記者会見で、日経平均株価は「政権が変わる前は 8 千円台で、（現在は）1 万 2 千円台だから 5 割上がっている」と述べた。13 日の終値が日銀が量的・質的緩和をやる前の水準に下がったことには「**もっと上がると思って損したというのは、その人たちの感性の問題、その責任までこっちに言われてもどうにもならない**」と話した。

ごもっともな話であり、まさに正論だ。だが正論ではあるものの、株価の下落で先行きにまた不安感が台頭したゆえ、内閣支持率も多少は下がった。

先週号で当方は「よって景気を良くするためには、政府・日銀はちょうど良い押し目が入った今この場面こそ、何らかのアドバルーンを上げなければならない。“往って来い”まで様子見しては絶対ダメだ。足元の景気が良くなるまで待つなど愚の骨頂だし、**ここからまた強烈に買い上げるような材料を提供することこそ必要だろう**。国債金利の多少の上昇なんて、どうせデフレ脱却→インフレ目標を定めているのだから、そんな多少の副作用には目を瞑るべきだ。絶対にヘタってはダメだ。**11 日（火）の黒田会見には期待したい**」としたが、**今回の日銀金融政策では新たなものは何も出ず**、この日の 13,500 円台を戻り天井に、黒田ショックの前まで下がってしまったわけだ。相場の下落を人のせいにするわけではないが、ちょっと残念な展開だ。

巻末に日経 225 のチャートをアップしているが、6/7 の安値は一目均衡表の雲の下限で止まったところ。ここから反騰させ、また上に持って行ってもらいたいところだったが、13 日の急落で一気に下抜けたわけで、こうなると調整期間は長引きそうだ。

さて 7 月の参院選については、自民党には多少の逆風となったかもしれないが、それ以上に民主党、維新、“みんな”らはもっとパッとしない。無党派層には投票したいところがないわけで、どうせ自民党が大勝することだろう。

だがやはり、政治家は落選という危機感が無いと、真面目に仕事をしてくれないかもしれない。対立軸のない中での自民党の勝利は、日本にとってあまり良い事ではなさそうだ。そういう意味でも、今週の下落というのは非常に残念だ。「さあ、これから景気よくなるぞ～！」というムードで自民党が勝利するわけではなさそうで、他よりはちょっとマシかな？と勝つわけだから。もっとも選挙なんて元々そんなもので、どっちがマシか比べだが。

今は、株式市場の調整期間が長引けば円高にもなるし、円高になれば商品市場も下がるし、という状況だ。来週は米国 FOMC があるわけで、出口戦略がまた話題になるようなら、もう少し安値があるのかもしれない。

長い目で見れば株式相場は買い場であるとは思っているし、円安も進み、商品市場もまた上がると思ってはいる。しかしともかく今は、底入れを確認するような材料、それを示唆する明確なチャートの出現を待たないと、仕掛けづらい展開は続きそうだ。

〔貴金属〕

〇東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	6 月限(当限)	前日比	4 月限(先限)	前日比
6 月 10 日	¥4,380	−7	¥4,382	−8
6 月 11 日	¥4,376	−4	¥4,379	−3
6 月 12 日	¥4,279	−97	¥4,284	−95
6 月 13 日	¥4,205	−74	¥4,208	−76
6 月 14 日	¥4,240	35	¥4,242	34

金相場は、先週号においては『来週は短期的な買い場の提供となるのではあるまいか。4,300 円第前半は買いであり、4,500 円程度までは戻してもおかしくないだろう。しかしトレンドはまだ売りなので、あくまでも短期張りに徹するべきであると考える』とコメントした。

今週の相場展開は、**一時 93 円台に突入する円高**を受け、週半ばから急落の展開に。週末には安値で **4,173 円（6/17）まで記録**した。

すでに**先週末に 4,430 円（5/20）のネックラインを割り込み、三尊天井を形成済みの相場**ではあったものの、株式市場の急落と円高の到来が、金市場には更なる売り圧力となったわけだ。**安値 4,173 円は 4/16 の安値 4,132 円はまだ割り込んでいないものの、終値ベースではすでにあの暴落時点の終値を割り込んでいる。**

個人投資家の多くは、推定で 4,600 円辺りが平均買い値と思われるが、「金は急落しても、耐えていれば戻るのだ！」という意識が高いようで、**投げが出た様相がない。**これは悪質だ。

もちろん相場ゆえ、耐えていれば本当に戻るかもしれない。しかし…中略…

現状での相対力指数は 30 ポイントまで低下であり、4,200 円近辺で底固めする可能性はある。しかし買うには、やはり明確な底入れを確認する必要があり、単なる値頃感ではリスクが大きすぎる。

一方でチャート判断からの下落目標は、戻り天井 4,760 円～ネックライン 4,430 円の幅 330 円の倍返しなら、ズバリ 4,100 円ジャスト。

更に大きな下落を想定するなら、前回の底値 4,132 円→4,760 円までの 628 円上げの倍返しの下げで、ズバリ 3,504 円。

ちょっとこれは想定しづらいが、可能性はゼロではない。…中略…

ただし妥当なレンジとしては、やはり 4,100 円～4,400 円のレンジに変わったと考えるのが妥当だろう。**先行きは為替次第であろうし、株式市場次第でもある。来週の FOMC には注目だろう。**現在の情勢では、4,500 円台は遠くなりにけりだ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 6 月	¥4,023	6 月 27 日	¥5,068	2 月 7 日	¥3,940	7 月 24 日	¥4,240
2013 年 8 月	¥4,224	8 月 29 日	¥5,873	2 月 7 日	¥4,125	4 月 16 日	¥4,240
2013 年 10 月	¥4,404	10 月 29 日	¥5,077	2 月 7 日	¥4,129	4 月 16 日	¥4,238
2013 年 12 月	¥4,519	12 月 25 日	¥5,081	2 月 7 日	¥4,131	4 月 16 日	¥4,241
2014 年 2 月	¥4,759	2 月 26 日	¥4,979	3 月 21 日	¥4,132	4 月 16 日	¥4,245
2014 年 4 月	¥4,585	4 月 25 日	¥4,760	5 月 10 日	**¥4,173**	**6 月 14 日**	¥4,242

〇NY 金日足

…削除済み…

6/14 の NY 市場では、前日比 9.8 ドル高の 1387.6 ドルでの終了。ただし為替は円高であり、一時はまた 93 円台もあって 94.34 円での終了である。換算では 30 円ほど安い。夜間取引でもその分は下げている。

現状での NY 金のチャートは、完全な横ばい。1350 ドル～1420 ドル程度の動きである。ただし少なくともまだ買いトレンドではなく、売り勢力の範囲内である。

となる東京市場は、為替の影響が何よりも大きく、さてどこで円が反転するかに注目だ。

なお CFTC 発表の 6/11 現在のファンドのポジションは、…中略…

6/14 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、現状での下値目標は 4,100 円であろう。戻してもまた売られる可能性も高く、また円安トレンドが始まらなければ、上値は重いと判断せざるを得ないだろう。

〇東京プラチナ日足
…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	6 月限（当限）	前日比	4 月限（先限）	前日比
6 月 10 日	¥4,757	−30	¥4,767	−37
6 月 11 日	¥4,766	6	¥4,783	16
6 月 12 日	¥4,653	−13	¥4,672	−111
6 月 13 日	¥4,488	−165	¥4,492	−180
6 月 14 日	¥4,467	−21	¥4,490	−2

プラチナ相場は、先週号においては『4,600 円～5,000 円の中でのもみ合い継続の相場であろう。突っ込み買い、吹き値売りの逆張りが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、12 日・13 日の急落は金以上に大きなものとなり、一気に 4,500 円割れも演じた相場が安値で **4,420 円（6/14）まで記**録。

そこからは多少戻して週を終えたものの、その後の夜間取引では **4,411 円のまで記録**と安値更新である。

如何に南ア問題という潜在的な強材料があるとはいえ、**株の急落時には金以上に下げやすいのがこのプラチナ相場である**。リーマンショック時がそうであったように、今回も結局は株の下落が金以上にプラチナに影響を与えた事は否めない。

とにかく相場は一気に 4,600 円を割り込み、チャートは完全に悪化。まだ 4/16 に記録した 4,310 円には余裕があるものの、それに近づくか、もしくは下回る事態も否定出来ない情勢だ。

先週号においては「基本的には 5,000 円天井だが、押し目買いでもある相場と見ている。最大下がって 4,500 円程度とチャートでは判断しているため、4,600 円台への大きな突っ込みは、買い拾っても幾らか取れるだろうとの考えである」としたわけだが、**底入れの唯一の可能性は相対力指数がすでに 30 ポイントを割り込んでいること**。一応は下限に来ている。

しかし…中略…　**火曜日くらいまでに戻っていないと、悪質なパターンへ変化する。**

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナ一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 6 月	¥3,681	6 月 27 日	¥5,267	2 月 7 日	¥3,460	7 月 24 日	¥4,467
2013 年 8 月	¥3,860	8 月 29 日	¥5,274	2 月 7 日	¥3,807	8 月 31 日	¥4,470
2013 年 10 月	¥3,998	10 月 29 日	¥5,288	2 月 8 日	¥3,933	10 月 30 日	¥4,472
2013 年 12 月	¥4,249	12 月 25 日	¥5,300	2 月 8 日	¥4,236	12 月 25 日	¥4,485
2014 年 2 月	¥4,831	2 月 26 日	¥5,052	3 月 12 日	¥4,310	4 月 16 日	¥4,485
2014 年 4 月	¥4,622	4 月 25 日	¥4,999	5 月 16 日	**¥4,420**	**6 月 14 日**	¥4,490

前述のように、すでに夜間取引で先物は 4,411 円と安値更新である。

〇プラチナー金価格差日足
…削除済み…

週末現在のサヤは、4,490 円（プラチナ）－4,242 円（金）＝**248 円。6/10 の 426 円をピーク**

に、縮小傾向である。夜間取引では、更にサヤは縮小である。

…中略…

マイナスまでサヤが縮小するとまでは考えていないが、まだ仕掛け場は先の事だろう。

結論として当方の相場観は、相場は一気に底抜けの展開になってしまっている。来週前半に底入れしなければ、今後は悪質な戻り売り相場になるだろう。来週の中盤は山場であろう。

〔穀物〕

〇東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	7 月限(当限)	前日比	5 月限(先限)	前日比
6 月 10 日	¥35,100	110	¥27,720	560
6 月 11 日	¥38,000	2900	¥27,440	-280
6 月 12 日	¥38,110	110	¥27,280	-160
6 月 13 日	¥41,110	3000	¥26,320	-960
6 月 14 日	**¥44,110**	3000	¥26,510	190

まずはコーンから…

先週号においては『6/3 の高値で天井を打ったと見ている。今週 12 日の米農務省報告前後に 2 番天井を打つと考えており、戻り売り方針が良いだろうと見ている。ただし 25,000 円以下まで、大きく下がるとは見ていない』とコメントした。

今週の相場展開は、円高・他商品安の影響もあって続落。**26,320 円（6/13）まで下落**であり、天井を打ったと当方が予測したところからは**都合 2,650 円の下落**となった。

チャートでは一気に一目均衡表の雲を下抜け、一気にまた 1,000 円以上の下落である。次のターゲットは 4/4 に記録した **25,690 円**であり、そこまではあと 600 円強である。

だがこうして下落中の先物相場とは真逆に、週末に納会した当限は急騰に継ぐ急騰。なんと納会値としては、史上最高値となる 44,110 円というとんでもない価格での終了となった。旧穀・新穀は全く別な商品と考えた方が良いのは前々から言っている事だが、凄まじい動きである。

今回は、この 2013 年 7 月限のチャートをアップしてみる。

〇東京コーン 7 月限一代足

…削除済み…

このチャートは、週末に納会した 7 月限の発会→納会までを示したものである。**昨年 6 月に 21,500 円台からスタートした相場が、ホット＆ドライで一度 3 万円まで上がり、その後秋には一度下がるが、2 月・3 月の乱高下を経て、44,000 円台というとんでもない高値で終わったわけである。**…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥21,550	6 月 18 日	**¥44,110**	**6 月 14 日**	¥21,490	6 月 18 日	**¥44,110**
2013 年 9 月	¥28,500	8 月 16 日	¥33,570	6 月 3 日	¥25,510	10 月 1 日	¥31,390
2013 年 11 月	¥25,600	10 月 16 日	¥28,910	5 月 30 日	¥24,420	11 月 14 日	¥26,390
2014 年 1 月	¥25,700	12 月 17 日	¥28,600	6 月 3 日	¥24,930	12 月 21 日	¥25,880
2014 年 3 月	¥27,290	2 月 18 日	¥28,750	6 月 3 日	¥25,690	4 月 4 日	¥26,330
2014 年 5 月	¥26,550	4 月 16 日	¥28,970	6 月 3 日	**¥26,320**	**6 月 13 日**	¥26,510

相場の動きをすべて理屈付けする事は不可能だが、次に生まれるのが 2014 年 7 月限となる。現在残っている 2013 年 9 月限までは、昨年のホット＆ドライで収穫高が低下した旧穀という事になる。11 月限以降は、今、畑にあるコーン、新穀という事になる。

当方の個人的な考えだが、今年もまだ収穫がどうなるかなど誰にもわからんが、本命は来年の相場であろうと思っている。

つまり 2014 年 9 月限が生まれる 8 月まではこんなもんだろうが、2014 年 11 月の相場は来年の今頃に中物限月に廻るわけで、しかもまだこの世に存在しない来年の作付～収穫の相場である。この限月以降を、徹底的に強気したいわけだ。つまり仕掛けは、今年の晩秋からという事になる。

なお週末 6/14 のシカゴ市場は、7 月限で前日比 11.50 セント高の 655.00 セント。12 月限では 2.25 セント安の 533.00 セント。東京市場の新穀換算では 190 円安である。

また 12 日に発表された米農務省報告では、

○ **生産高** 141 億 4,000 万 Bu（5/10）→**140 億 500 万 Bu**（6/12）と 1 億 3,500 万 Bu の下方修正。（**昨年は 107 億 8,000 万 Bu**）

○ **期末在庫**　20 億 400 万 Bu→**19 億 4,900 万**と 5,500 万 Bu の下方修正。（昨年は 7 億 6,900 万 Bu）

○ **在庫率**　15.5%→**15.2%**（**昨年同期は 6.9%**）とされた。

更に CFTC 発表の 6/11 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、ここから更に暴落するほどの相場であるとは思えないが、買い材料もまた皆無である。戻り売りでお茶を濁し、秋の買い場を待つのが良いだろう。

〇東京大豆日足
…削除済み…

今週の大豆の値動き

	6 月限（当限）	前日比	4 月限（先限）	前日比
6 月 10 日	¥67,500	400	¥54,260	1110
6 月 11 日	¥69,000	1500	¥54,060	−180
6 月 12 日	¥71,000	2000	¥53,790	−290
6 月 13 日	¥70,900	−100	¥52,220	−1570
6 月 14 日	**¥70,900**	0	¥52,470	250

続いて一般大豆です…

先週号においては『55,380 円で天井を打った可能性が高いと判断しているものの、それを超えるか、近づく 2 番天井はもう一度あるとの判断である。崩れたと安値を叩くのはまだ危険との判断であり、米農務省報告前後の相場を見守りたい』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けこそ反騰するものの、その後は下落。特に 13 日は急落であり、週末には安値で **51,780 円まで記録**である。**天井を打ったとした 6/3 の 55,380 円からは 3,600 円の下落幅である。**

もっとも週末に納会した 6 月限は、7 万円オーバーでの高納会。先物よりも 2 万円近く高いわけで、**コーン同様に新穀と旧穀は全く別の商品のような値動きで終了**である。

先物チャートでは、まだかろうじて一目均衡表の雲の上での推移であり、コーンよりはまだマシに見えるところ。…中略…

なお今週は、2013 年 6 月限の発会～納会までの一代足をアップしてみた。
〇東京大豆 6 月限一代足
…削除済み…

発会スタートは 44,700 円であり、その後現在の先物価格と同様の 52,000 円台まで上がったり、また下がったりの動きである。今年に入ってから上昇に加速が付いた相場は、**結局は 7 万円台へと駆け上がり、そのまま高く終わったわけだ。**

とにかく昨年の米国産大豆の収穫高は、ホット＆ドライの影響で少なく、今年のものは現在作付中だが、まだ収穫には遠いため、今の在庫が厳しい＝旧穀価格の上昇となっているわけだ。

もちろん今年の収穫がどうなるかは、今後の天候次第。昨年のように少なければ、またこの 6 月限のような動きをするのだろうし、順調ならば上がらないで終わるという話だ。

そんな中で 12 日に発表された米農務省報告では、

〇 **生産高**　33 億 9,000 万 Bu と 5/10 と変わらず、（昨年は 30 億 1,500 万 Bu）
〇 **期末在庫**　2 億 6,500 万 Bu と 5/10 と変わらず、（昨年は 1 億 2,500 万 Bu）
〇 **在庫率**　8.1%と変わらず、**昨年同期は 4.1%**

前回発表と何も変化ないのだから、材料にはならず。現在の**作付進捗率は 71%**と若干遅れているが、心配するほどの水準ではない。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 6 月	¥44,700	6 月 18 日	**¥71,000**	**6 月 12 日**	¥44,400	6 月 18 日	**¥70,900**
2013 年 8 月	¥48,020	8 月 16 日	¥64,900	5 月 16 日	¥47,500	11 月 13 日	¥64,200
2013 年 10 月	¥47,220	10 月 16 日	¥67,810	5 月 29 日	¥46,920	10 月 16 日	¥65,400
2013 年 12 月	¥50,680	12 月 17 日	¥57,100	6 月 4 日	¥48,450	1 月 9 日	¥55,210
2014 年 2 月	¥53,000	2 月 18 日	¥55,010	6 月 3 日	¥50,150	4 月 4 日	¥52,370
2014 年 4 月	¥50,910	4 月 16 日	¥55,380	6 月 3 日	¥49,850	5 月 2 日	¥52,470

週末 6/14 のシカゴ市場では、7 月限で前日比 6.25 セント高の 1516.50 セント。11 月限では 2.25 セント安の 1298.25 セント。

なお CFTC 発表の 6/11 現在のファンドのポジションは、…中略…

特にコーンは、米国はシェールガスでエネルギー輸出国に転換しようとしている中で、わざわざコーンから作るエタノールに力を入れる必要もないわけだから、そういう意味でも穀物の需給は悪化しないと思うわけだ。水不足にならなければだが。

結論として当方の相場観は、ファンダメンタルズはコーンよりも若干強いと思われるが、だからといって買いを推奨する状況ではないだろう。大崩れはないと思うものの、戻り売り中心での対処がベターと考える。

〔ゴム〕

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	6 月限（当限）	前日比	11 月限（先限）	前日比
6 月 10 日	239.7	−0.2	247.0	1.0
6 月 11 日	243.1	3.4	248.6	1.6
6 月 12 日	236.8	−6.3	240.1	−8.5
6 月 13 日	228.5	−8.3	231.3	−8.8
6 月 14 日	230.2	1.7	235.3	4.0

先週号においては『4 月→5 月の戻り分を、完全に“往って来い”した相場であるが、まだ底入れを確認したとは言えない情勢だ。当面は戻り売り方針で、チャートだけの判断だと底値は 186 円台と読めるが、そこまで悪い相場なのかどうかはまだ不明だ』とコメントした。

今週の相場展開は、またしても下落し、**230.5 円（6/13）まで値を消す展開に。5 月の W トップのネックラインからでもすでに 50 円の下落であり、2 月の高値からは 100 円を超える下げである。**

もう 30 年以上ゴム相場は見てきているが、高い時は 500 円、安い時は 60 円程度のものであり、全く値頃感が通用しないのがこのゴム相場である。

だから完全に底抜けした相場が、**いずれ最悪の予測の 186 円まで下げても驚くわけではないが、下げ道中でもどこかで 20 円ほど戻るのが今までのパターンである。となると現在の上値抵抗線は 240 円台であるゆえ、まずは 220 円まで下げて戻すのかな？** そんな風に単純に見ているのが当方である。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 6 月	286.0	12 月 21 日	334.1	2 月 4 日	**228.5**	**6 月 13 日**	230.2
2013 年 7 月	316.3	1 月 28 日	337.8	2 月 6 日	**228.0**	**6 月 13 日**	232.7
2013 年 8 月	301.0	2 月 25 日	302.1	2 月 25 日	**229.7**	**6 月 13 日**	233.0
2013 年 9 月	279.5	3 月 26 日	297.7	5 月 13 日	**229.9**	**6 月 13 日**	233.3
2013 年 10 月	253.7	4 月 24 日	299.0	5 月 13 日	**229.5**	**6 月 13 日**	233.5
2013 年 11 月	267.7	5 月 28 日	274.8	5 月 29 日	**230.5**	**6 月 13 日**	235.3

全限、一代安値の更新中である。

当先のサヤは、6 月限 230.2 円～11 月限 235.3 円と **5.1 円の順ザヤ**。順ザヤ幅は更に縮小だが、逆ザヤになるとまでは思っていない。サヤの縮小は、それだけ買い人気が後退している証だろう。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、5/31 現在で 654 トン減の 14,244 トン。3 旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、17,000 元台まで下落。連休明けに安値更新である。

そろそろ何かしらの生産国の価格維持政策が出てもおかしくないが、タイ・マレーシア・インドネシアの主要生産 3 カ国以外の、今はベトナムなど新興ゴム生産国が増えているゆえ、なかなか有効な手がないのかもしれない。

結論として当方の相場観は、底打ちしたかどうかは不明。一応 220 円辺りまで下げれば反発もあると見ているが、20 円も戻せば戻り売りを浴びる展開となるだろう。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足
…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『NY 原油は 90 ドル～97 ドルのもみ合いの継続であろう。東京市場はそれに為替がオンするため、夜間取引で大きく戻した相場が 62,000 円オーバーなら押し目買い転換。再び 6 万円を割る様なら、売り方針という事であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、**NY 原油は 13 日までに 96 ドル台まで反騰**。週末 6/14 は、前日比 1.16 ドル高の **97.85 ドルでの終了**であり、**高値は 98.25 ドルまで記録した**。

週末の NY 原油の上昇要因は、中東情勢懸念の高まりである。トルコの反政府デモ、米国のシリア反体制派への武器供与の承認の他、イラン大統領選の結果待ちが大きかったのだと思われる。**しかし今朝のニュースによれば、大統領は欧米との協調派であるロウハニ氏が当選である。原油は大きな買い材料を失ったのではあるまいか？**

週末の高値 98.25 ドルは直近の高値更新の価格であり、今年の最高値であった 98.24 ドル（1/30）の 1 文新値である。これは売りだろう！

なお 6/14 現在の**ロンドンブレントは**…中略…
また **6/11 現在のファンドのポジションは**、…中略…

○東京原油日足
…削除済み…

今週の東京原油の動き

	6 月限（当限）	前日比	11 月限（先限）	前日比
6 月 10 日	¥62,630	1290	¥61,510	1660
6 月 11 日	¥62,190	−440	¥61,110	−400
6 月 12 日	¥61,070	−1120	¥59,490	−1620
6 月 13 日	¥60,330	−740	¥58,200	−1290
6 月 14 日	¥61,220	890	¥59,690	1490

東京原油は、週明けこそ急騰したものの、NY 原油とは真逆の展開でその後大きく下落。**58,040 円まで下落**した。

NY 原油が 95 ドル以上にいる中で大きく下落したのは、円高と株安の影響だ。よって NY 原油が今年の最高値水準に居るからといって、東京市場が出遅れとは言えないのでは？

内外のチャートで単純に比較すれば、今は 66,000 円台じゃないと、と考える人もいるかもしれないが、当方は、**東京市場は東京市場のチャートを見ての判断が良しと考えている**。

東京市場の夜間取引は **60,820 円の高値まで示現**で、**終わりは 59,850 円**での終了。**この高値にストップロスを置き、週明けは翌日からの NY 原油の下落を期待して、売っても面白いのではあるまいか？**

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 6 月	¥58,080	1 月 4 日	¥66,690	2 月 13 日	¥57,320	1 月 8 日	¥61,220
2013 年 7 月	¥62,910	2 月 1 日	¥66,460	2 月 13 日	¥57,780	4 月 18 日	¥60,520
2013 年 8 月	¥60,560	3 月 1 日	¥65,240	5 月 21 日	¥57,360	4 月 16 日	¥60,270
2013 年 9 月	¥62,370	4 月 1 日	¥65,100	5 月 21 日	¥57,370	4 月 18 日	¥60,090
2013 年 10 月	¥59,500	5 月 1 日	¥65,000	5 月 20 日	¥57,510	5 月 2 日	¥59,930
2013 年 12 月	¥60,370	6 月 3 日	¥62,050	6 月 5 日	**¥58,040**	**6 月 14 日**	¥59,690

結論として当方の相場観は、戻り売り相場であろう。特に NY 原油は週末まで急騰していたが、これで天井と打ったのではないかとの観測。東京市場は為替の影響が大きく、判断は付けづらい面が大きいが、下げトレンドはまだ続くとの判断である。

〇東京ガソリン日足
…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	7 月限(当限)	前日比	12 月限(先限)	前日比
6 月 10 日	¥74,960	1180	¥73,020	1180
6 月 11 日	¥74,800	−80	¥72,830	−190
6 月 12 日	¥73,660	−1220	¥71,410	−1420
6 月 13 日	¥72,470	−1190	¥69,790	−1620
6 月 14 日	¥74,040	1570	¥70,990	1200

続いてガソリンです…

先週号においては『75,590 円（5/20）にストップロスを置き、それに接近した場面を売る。目標値は 7 万円割れであるが、長くポジションを維持する相場ではないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けは 73,000 円台まで戻したが、その後は急落。**69,450 円まで下げ**、週末はまた 7 万円台に戻した。

なお夜間取引では、71,960 円の高値まで一度出すが、上げ幅のほとんどを消しての終了である。

先週号で「**75,590 円（5/20）にストップロスを置き、それに接近した場面を売るのが良い。目標値は 7 万円割れ**」としたが、大きな戻りはなかったので売れた人は少ないか？　**ただし予想通りに、7 万円は割れたわけである。**

大元の NY 原油のチャートと比較すれば、方や年初来の高値水準、方や年初来の安値水準を目指しているゆえ、手は出しづらかろう。ただし、流れはまだ下との判断である。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥69,810	12 月 26 日	¥82,280	2 月 13 日	¥69,600	4 月 16 日	¥74,040
2013 年 8 月	¥76,550	1 月 28 日	¥82,250	2 月 13 日	¥69,600	4 月 16 日	¥74,100
2013 年 9 月	¥78,930	2 月 26 日	¥79,590	3 月 12 日	¥69,050	4 月 18 日	¥72,910
2013 年 10 月	¥74,630	3 月 26 日	¥76,710	4 月 1 日	¥68,150	4 月 18 日	¥72,010
2013 年 11 月	¥72,990	4 月 26 日	¥75,590	5 月 20 日	¥68,030	5 月 2 日	¥71,440
2013 年 12 月	¥71,760	5 月 27 日	¥74,300	5 月 29 日	**¥69,450**	**6 月 14 日**	¥70,990

6/14 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/8 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売り継続の相場であろう。目標値は、68,030 円に接近するか、割り込むかというところに設定するのが良いのでは？

〇東京灯油日足
…削除済み…

今週の灯油の値動き

	7 月限（当限）	前日比	12 月限（先限）	前日比
6 月 10 日	¥73,400	1710	¥74,940	1480
6 月 11 日	¥73,160	−240	¥74,710	−230
6 月 12 日	¥71,890	−1270	¥73,170	−1540
6 月 13 日	¥72,470	−1180	¥71,710	−1460
6 月 14 日	¥72,280	1570	¥73,480	1770

最後に灯油です…

先週号においては『急騰場面を売り、急落場面を買う逆張り相場であろう。トレンドが大きく出るとは思えないため、売り乗せ、買い乗せは厳禁だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けは 75,000 円台まで急騰。その後 **71,500 円台まで暴落**。そこからはまた 2,000 円の急騰など、やはり逆張りの展開となった。

チャートは右肩下がりで一目均衡表の雲の下に出ており、どちらかと言えば下げトレンドである。突っ込みは一時的に買っても良いかもしれないが、やはり入るのは売りからがベターか。

なおガソリンは逆ザヤ、灯油が順ザヤなのは、需要期の季節習性から言って当然の事。だからこそ基本的に、1 月限が出て高値を付けるまでは、よほど原油相場が崩れない限りは大下げしないという事を予測しているわけだが、かと言って買える相場でもなさそうな情勢では、正直面白い相場ではないだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥68,440	12 月 26 日	¥81,700	2 月 12 日	¥67,320	4 月 18 日	¥72,280
2013 年 8 月	¥74,200	1 月 28 日	¥82,030	2 月 12 日	¥67,720	4 月 18 日	¥72,200
2013 年 9 月	¥76,550	2 月 26 日	¥76,980	2 月 26 日	¥68,340	4 月 18 日	¥72,200
2013 年 10 月	¥74,090	3 月 26 日	¥77,270	4 月 11 日	¥69,000	4 月 18 日	¥72,400
2013 年 11 月	¥75,350	4 月 26 日	¥77,820	5 月 20 日	¥69,850	5 月 2 日	¥73,000
2013 年 12 月	¥74,610	5 月 27 日	¥77,240	5 月 29 日	**¥71,580**	**6 月 14 日**	¥73,480

6/14 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/8 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、まだ逆張りの展開が続くだろう。いずれ出てくる 1 月限の安いところを買いたいので、それまでは下げ賛成の相場である。

〔為替・株式〕

○ドル/円相場日足

…削除済み…

103.73 円（5/22）で円安トレンドが終わった相場は、ついに黒田ショックのスタート時点である 93 円台まで 10 円の円高となった。

幾ら円高が進行しても 90 円は割れないと思ってはいるが、先の日銀金融政策決定会合で何らかの策が出て、94 円台で調整は終わると思っていた当方には、意外な展開を強いられた。

ともかくチャーとでは、一目均衡表の雲の下に出てトレンド転換を示唆しているわけで、明確な底打ちを確認するまでは仕掛けづらいとしか言えない。

なお来週の主な予定は、

…中略…

最大の注目は、FOMC の 19 日だ。

○日経平均相場日足

…削除済み…

調整で 12,000 円台は出るだろうとしていたわけだが、正直言えば 6/7 で止まると考えていた。とこが 6/11 まで 1,000 円戻した後、再び下落して一目均衡表の雲の下に出たわけで、これだと目標値は倍返しの下げで 11,500 円台という事になってしまう。（その前に 11,800 円に重要なポイントがあるが）

…中略…

○NY ダウ相場日足

…削除済み…

週末のダウ平均は、100 ドルほど下げて 15,070 ドル台。まだ崩れてはいない。FOMC で蛇が出るか、鬼が出るか。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものでは在りません。

（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com